

テーマ「安心・安全な離島生活を送るには」

式根島を訪れる観光客が安心・安全に滞在するためには、巨大地震発生時の避難経路や避難生活に関する重要事項を事前に適切に伝えることが重要であると考えます。島内の住民はこれらの情報を日頃から共有し、災害時の行動について理解しているが、観光客にとっては土地勘がなく、緊急時に適切な判断ができるとは限らない。そのため、観光客が災害時に適切な行動をとれるよう、事前の情報提供や防災インフラの整備を行うべきだと考えた。

今回、式根島観光局の田村さんに話を伺う機会を得た。その中で、島の東側にある野伏港は開けた海に面しており、津波発生時には大きな波が押し寄せる可能性が高いということを伺った。島民はこうした地形の特性を理解し、どこの港が危険か、どこへ避難すべきかを日頃から認識している。しかし、観光客はこのような情報を事前に知る機会がほとんどなく、災害時に適切な避難行動を取れるかどうか、大きな課題となっている。

式根島は、日本国内外から多くの観光客が訪れる人気の観光地である。特に、海外からの観光客にとっては、日本語の情報が十分に伝わらないことが懸念される。実際、島内には津波避難経路や海拔の標識が設置されているものの、これらの表示は基本的に日本語のみで記載されており、外国人観光客にとっては理解しづらい。また、日本人であっても、避難情報が消火栓に記載されているなど、視認しづらいケースが多く見受けられた。これでは、災害発生時に迅速な避難行動を取ることが難しくなってしまう。

この問題を解決するために、いくつかの具体的な対策が考えられる。まず、島内の避難経路や避難場所を示す標識を、多言語対応にすることだ。また、標識の設置場所についても、消火栓や目立たない場所ではなく、観光客が多く訪れる主要なスポットに掲示することで、視認性を高めることができる。さらに、民宿のチェックイン時に防災情報を案内する仕組みを導入することで、観光客が避難経路を意識的に確認し、緊急時に適切な行動を取れるよう促すことも有効な対策の一つとなるだろう。

式根島の魅力を存分に楽しんでもらうためにも、安全対策を強化し、誰もが安心して過ごせる環境を整えることが重要であると考えます。